令和３年度学校だより

善誘館

全国学力・
学習状況調査について

甲府市立善誘館小学校

R3 10.8　校長室

校訓　「善行・勤勉・体育」

学校教育目標

- ○　思いやる心をもつ子
- ○　よく考え工夫する子
- ○　元気でたくましい子

○全国学力・学習状況調査とは

本年度の全国学力・学習状況調査は，５月２７日（木）に全国の小中学校で実施されました。この調査は，学力向上を目指して，指導内容や指導方法の改善，生活指導に役立たせる目的で行われているものです。その調査内容は以下のとおりです。

◇教科に関する調査（国語・算数）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能等

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

◇質問紙調査

・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

こうした学力調査の実施は，子どもたちの学力や学習の状況を把握・分析し，教育活動の成果と課題を確認し，その改善を図ることを目的としています。今年度の調査結果を分析し，その取り組みについてまとめましたのでお知らせします。

○本校の学力・学習状況調査の結果について

◇教科に関する調査（国語・算数）

①全国の平均正答率との比較

文部科学省では，平均との差±5%を微差とし「±5%は，ほぼ同等を意味する」としています。このことを基に±5%の範囲にある場合「ほぼ同等」，＋5%以上を「上回っている」，－5%以下を「下回っている」と表します。

・国語　全国・県の平均正答率とほぼ同等です

・算数　全国の平均正答率を若干下回っていますが，県の平均正答率とほぼ同等です

②傾向や課題

国語；正答率を，全国・県と比較すると上記のような結果となっています。「資料を用いた目的を理解する」，「文章全体の構成を捉え，内容の中心となる事柄を把握する」「自分の主張が明確に伝わるように，文章全体の構成や展開を考える」に関しては全国・県を上回った正答率になっています。しかし，「目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約する」「文の中における主語と述語との関係を捉える」「文の中における主語と修飾語との関係を捉える」に関しては苦手意識を持っているようです。

算数；正答率を，全国・県と比較すると前述のように，全国を若干下回っていますが，県とほぼ同等となっています。「条件に合う時刻を求めることができる」，「棒グラフから項目間の関係を読みとることができる」，「データを２次元の表に分類整理することができる」に関しては全国・県を上回った正答率になっています。しかし，「帯グラフで表された複数のデータを比較し，示された特徴を持った項目とその割合を記述できる」，「場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し，計算をすることができる」，「基準量を１としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述できる」に関しては苦手意識を持っているようです。

国語・算数の結果から本校の子どもたちは，『目的に応じて，文書と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすること』『円グラフや帯グラフの特徴とそれらの使い方について理解すること』『乗数や除数が整数である場合の小数の乗法および除法の計算ができること』『小数とその計算に関わる数学的活動を通して，ある量の何倍かを表すのに小数を用いること』について苦手意識を持っているということが推測されます。

今回出題された中から，全国の平均正答率が低く，本校の６年生としても課題として考えられる問題を採り上げてみました。

※国立教育政策研究所の HP に全問題，正答例が掲載されています。よろしければご参照ください。

◇国語科

設問２の4

目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約したり，文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることができるか。

○説明的な文章を読み，
　　わかったことをまとめる問題

資料として「身近にある便利なもの」として「面ファスナー」についての説明文が提示されています。

②「面ファスナー」の良さを取り上げて，国際宇宙ステーションの中での使われ方について，条件に合わせて書く

→「目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約できるか」を問う問題です。

学習指導に当たっては…

・要約するということは，
　ア）文章全体の内容を正確に把握した上で
　イ）元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり，自分の言葉を用いたりして
　ウ）文章の内容を短くまとめること

について指導していきます。

同時に，

・同じ文章でも要約する目的によって
　ア）中心となる語や文は異なる場合があること
　イ）文章を要約するためには，目的に応じて文章全体から必要な部分を選ぶこと
　ウ）内容を端的に説明することが大切であること

についても指導を行っていきます。

設問３の3

筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えたり，目的や意図に応じて 書き表し方を工夫したりしながら，自分の考えを主張する文章を書くことができるかどうかをみる。

○文の中における主語と述語との関係を
　　捉えることができるか問う問題

①時には、みんなが使っていた一輪車が
　　片付けられずに残されています。

下線部の主語を問う問題です。

②その他にも、遊び終わったらすぐに遊具を
　　かたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。

下線部が修飾している言葉を問う問題です。

学習指導に当たっては…

・日常的に主語が何かを意識して文章を書くように指導していきます。
・読み手の立場に立って主語を省略せずに示したり，主語と述語のねじれがないかを確認してから伝えたりすることができるような指導を心がけます。
・主語と述語以外の言葉が，文の中でどのような働きをしているかについても考えさせるよう指導していきます。

◇算数科

設問３の4

身の回りの事象について，統計的に問題解決するために，集めるべきデータを判断したり，データを分類整理したり，表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができるか。

○帯グラフで表された複数のデータを比較し，示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかを問う問題

４種類の帯グラフを見ながら，割合の違いが一番大きい項目を選び，その項目と割合を書く問題です。

学習指導に当たっては…

・割合が同じくらいの項目や，割合が大きく違う項目を伝え合う活動を取り入れていきます。
・一つの項目から様々な割合を，それぞれ読み取ることができるような指導を心がけます。
・帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために，帯グラフの着目した部分を明らかにしていきます。

設問４の2　3

問題場面の数量の関係に着目し，除法が用いられる場合を理解したり，除法の結果の意味を解釈したりすることができるかどうかをみる。

○商が１より小さくなる等分除（整数)÷(整数）の場面で，場面から数量の関係を捉えて 除法の式に表し，計算をすることができるかどうかをみる問題

①数量の関係を捉え，正しく立式したり，計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるようにする

学習指導に当たっては…

・除法の場面では，何が被除数で何が除数かを明確に捉えて立式するよう指導します。
・具体物を操作しながら，問題場面に対応した式について話し合う活動を取り入れることが考えられます。

○小数を用いた倍についての説明を解釈し，基準量を１としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

②倍の意味について捉え直し，小数を用いた場合も，倍の意味を理解できるようにする

学習指導に当たっては…

・数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目した指導を行います。
・整数を用いた倍の意味を捉え直して，小数を用いた倍についても，同様に，基準量を１としたときに比較量が幾つに当たるかという意味について理解できるように指導を行います。

◇質問紙に関する調査について

①全体的な特徴

この「質問紙調査」は，「基本的生活習慣」「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」「学習習慣・学習環境」「学習に関する興味・感心や授業の理解度」などの状況を把握する内容となっています。善誘館小学校の子どもたちは，多くのの項目で「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」などの肯定的な回答をしていました。以下に質問紙調査に関する詳細を示します。

②学習意欲や学習状況に関する内容

☆「生活習慣」

この設問に関しては，ほとんどの項目で肯定的な回答が 80%以上となりました。朝ごはんを食べる，寝る時刻・起きる時刻など基本的な生活習慣が身についていることがわかります。

☆「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」

この設問では，「いじめはどんな理由があってもしてはいけないこと」「人の役に立つ人間になりたい」の項目については 100%の子どもたちが肯定的な回答をしていました。「学校行くのが楽しい」「友だちと協力することは楽しい」に関しても，肯定的な回答が多かったです。その反面，「自分の良いところを認める」，「将来の夢や目標を持っている」などの項目で肯定的な回答が若干低めでした。また，「失敗を恐れないで挑戦する」「思っていること・感じていることを言葉で表す」については低い値となっています。

☆「主体的・対話的で深い学び」

子どもたちの授業に対する取り組みで，「相手の考えを聞き，受け止めてから自分の考えをいう」「課題に向けて自分から取り組んだ」に対しては，肯定的な回答が多かったです。しかし，「自分の考えが相手に伝わるように，資料や文章など工夫して発表する」に関しては，肯定的な回答が若干低い値でした。発表に関しては苦手意識を持っている子どももいるようです。

☆「学習に対する興味・関心や授業の理解度」

国語や算数の学習は「大切だ」に対して，肯定的な回答をしている児童の割合は 95%を超えています。同時に，授業の中で「言葉の特徴や使い方を考えること」「目的に応じた読み方をすること」「普段の生活で活用できないか考えること」「いろいろな方法で課題を解いてみること」に対しては積極的に捉えている子どもたちが多いのですが，「国語や算数の勉強を好き」に対しての肯定的な回答はあまり多くありませんでした。今後の大切な改善点と捉えています。

☆「新型コロナウイルス感染症の影響」

新型コロナウイルス感染拡大による休校中に，「勉強について不安を感じていた」という回答はさほど高い値ではありませんでした。しかし，その期間「計画的に学習を進めることができた」「規則正しい生活ができた」に対して肯定的な回答も高い値ではありませんでした。「不安ではない」と回答した子どもたちも，「どうすればよいのかわからない」という想いがあったのが本音なのだと思います。「休校の期間，課題で分からないところがあったときの対応」では，「家族に聞いた」という回答が最も多かったです。長い休校の期間，保護者の皆様にご協力いただいたことに感謝申し上げます。

○令和３年度の学力向上の取り組み

（１）教師の授業力の育成

校内研究を中心に，授業力の向上を目指し研修をおこないます。学習形態を工夫（友だち同士の学び合いの場面を設定する）すること，ユニバーサルデザインを取り入れた授業を工夫することで，子どもたちの学びを深めていきたいと考えています。

（２）学習環境の整備

教室の壁面を利用し学習コーナーを設けるなど，日常的に学習環境を整える工夫をしていきます。ＩＣＴ教材を活用することで，子どもたちの興味・関心を高め，楽しみながら学ぶ経験をもたせていきたいと考えます。

（３）安心して学ぶことができる学級

子どもたちが「勉強したい」と思うためには，安心して学ぶことができる学級が必要です。「まちがっても大丈夫」「失敗しても大丈夫」安心して挑戦することができる親和的な学級づくりに取り組みます。学級担任であると同時に，学校担任として子どもたちと向き合っていこうと思います。

以上が全国学力・学習状況調査の結果の概要と，それを踏まえた善誘館小学校の取り組みです。このような学力調査で計られる「学力」は，あくまで「学力」の一部です。何を理解しているか・何ができるか（知識・技能），理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力），どのように社会・世界と関わり，よりよい人生をおくるか（学びに向かう力・人間性）の３つの柱をバランスよく育成し，知・徳・体の調和のとれた『生きる力』を育成することを大切にしていきたいと考えています。また，保護者・地域の皆様には，学力調査の点数だけではなく，子どもたちの意識・生活状況等を含めた「学校全体の状況（良い点や課題点）」も見ていただき，引き続きご理解とご協力をお願いいたします。